

基本事項 1

- マルチスレッドで動作する
 - 平面内の各要素は同時に進行する
 - 数字をカウントするプログラムで確認
 - 2つの while ループを並べてみる
 - 前の計算結果を使う
 - シーケンスストラクチャを使う
- データ型について
 - 数値：単位の設定も可能
 - ブール
 - 文字列
 - 配列：多次元配列
 - クラスタ：いろいろなデータ型を一つにまとめたもの (C の構造体)
 - 数値・文字列・配列などは線でつなぐ

基本事項2

- デバッグ方法
 - 「実行のハイライト」を使う
 - 「プローブ」を使う
- 制御の流れ
 - シーケンスストラクチャ
 - シーケンスローカル
 - while ループ, for ループ
 - シフトレジスタ
 - case ストラクチャ
 - TRUE/FALSE の場合 (デフォルト)
 - case の場合 (enum, ring を使う)

計算方法

- 「数値」中の計算コマンド類を使う
- フォーミュラノード
- ブール代数演算
- 真偽判断 (比較)

GPIB/LAN 制御

- 計測器 I/O → GPIB (“488”)
- 基本はテキストベースのコマンド (各計測器毎に独自のコマンドが定義されている) を送信するだけ
- 一度にコマンド/データを送信できるのは 1 台の機器のみ (バスを共有しているため)
- 同時刻操作が可能
- GPIB488.2 関数：プリミティブな操作が可能

製作実習・プログラミング上のTips

- コマンドを送信するプログラムを作成・サブVI化してみる
- コマンドを送信して結果を受信するプログラムを作成・サブVI化してみる
- バージョン変更履歴を残す
- コメントをたくさん記述する
- 配線はすっきりわかりやすく
 - ツール → オプション → ブロックダイアグラム → 「ワイヤの接点でドットを表示する」にしておくで見やすい